

その意志に、
強い実行力を。



特定非営利活動法人

ピースウィンズ・ジャパン

本部事務所

〒720-1622 広島県神石郡神石高原町近田1161-2 2F

TEL: 0847-89-0885 / FAX: 0847-82-2949

東京事務所

〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷2-41-12 富ヶ谷小川ビル 2F

TEL: 03-5738-8020 / FAX: 03-3465-2112

佐賀事務所

〒840-0831 佐賀市松原1-3-5 ゼロワン佐賀ビル 6F

TEL: 0952-20-1607 / FAX: 0952-20-1608

E-mail: meet@peace-winds.org

Website: <http://peace-winds.org>

ピースウィンズ

検索



ピースウィンズ・ジャパン



@PeaceWindsJapan

特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン

年次報告書 2017

2017.2.1 - 2018.1.31





豪雨により被害を受けた九州北部へ出動する前に打ち合わせをするレスキュー隊員と災害救助犬

年次報告書 2017 2017.2.1 - 2018.1.31

Contents

P.02	TOPICS / ご挨拶
P.04	活動一覧
P.06	活動報告
07	イラク / シリア / パレスチナ・ガザ
08	アフガニスタン / ウガンダ / 南スーダン
09	ケニア / シエラレオネ / ハイチ
10	スリランカ / ミャンマー / ネパール
11	バングラデシュ / 東ティモール / モンゴル
12	東北 / 熊本 / 九州北部
13	ピースワンコ / 佐賀 / 地域創生
P.14	日本での地域振興事業
P.16	支援方法
P.18	企業や団体からのご支援
P.19	団体情報
P.20	会計報告

いま、この瞬間も、中東で、アフリカで、アジアで、そして日本で、ピースウィンズ・ジャパンのスタッフたちが、さまざまな課題解決の最前線に立っています。

ご挨拶

2017年度のピースウィンズ・ジャパン(PWJ)の活動をまとめた年次報告書が完成しました。日頃の温かいご支援とご協力に対し、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

デシュのハキンバラ難民キャンプで、地元の医療団体と連携し、診療所の開設や巡回医療を手掛けています。

PWJはこのほかにも、国内外問わずさまざまな活動をしてきました。それらの活動は常に1つの思いに基づいています。それは、「自分のことを主張できない者の側に立って働きたい」ということです。社会問題の多様化・複雑化により、政府や役所だけでは解決できない問題が増加しています。だからこそ、民間の非営利団体であるNGO/NPOは課題解決の主要な担い手になり得る組織であり、なるべき組織だと私は考えます。

2018年度も、さまざまな分野でイノベーションを通じて社会的課題の解決に力を発揮し、民間非営利セクターの発展に貢献しようと思います。今後も社会に役立つ存在となれるよう、スタッフ一同、一丸となって尽力していく所存です。引き続き、ご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

「ソーシャルイノベーション・プラットフォーム」への進化を目標に掲げた2017年度は、国外のみならず国内でも医療や教育などの新たな分野に挑戦した1年でした。医療分野では、離島や山間部などの、いわゆる“無医地”の問題に取り組みしました。6月に開始した巡回診療は愛媛県上島町と連携し、瀬戸内海に浮かぶ2つの島に毎週2回、医師と看護師を送りました。週に延べ約50人の患者が診察に訪れるなど、住民が直面する問題に貢献できたと思います。

教育分野では、機会に恵まれない子どもたちを国内外から受け入れて社会に貢献する人材を育成するための活動に着手しました。2018年夏には国内外の被災した子どもたちが交流するサマーキャンプを実施します。

海外でも大きな動きがありました。8月にはミャンマーで、今世紀アジア最大の人道危機とも称されるロヒンギャ危機が勃発し、76万人にのぼる難民が発生しました。PWJは隣国バングラ

2018年5月
代表理事兼統括責任者
大西 健丞



Topics in 2017

設立から22年目を迎えた2017年度も、より良い社会を実現するため、挑戦とイノベーションを合言葉にさまざまな事業に取り組みしました。



Activities in 2017

2017年度の活動一覧

ピースウィンズ・ジャパンは2017年度、日本を含む16ヵ国・地域で活動し、
158万8681人、2万7087世帯に支援を届けました。

1,588,681
people

27,087
families

2017年度の支援事業一覧

IRAQ イラク		支援内容	実施場所	受益者
開発支援	教育	国内避難民受入地域における中学校・高等学校の改築	ドホーク州、アルビル州	2,851人
シリア難民支援	インフラ整備	難民キャンプの学校、給水設備、排水路、キャンプ内施設の修復、改築、建設	ドホーク州、アルビル州、ニナワ州	71,166人
	生活物資配布	酷暑、越冬対策として新規や脆弱性の高い世帯に生活物資配布	ドホーク州、アルビル、ニナワ州、スレイマニア州	29,403人
	学校保健	難民児童の学校健診実施	アルビル州、スレイマニア州	1,251人
	住宅再建	難民キャンプにおける仮設住宅建設・改善	ドホーク州、アルビル州	672世帯
国内避難民支援 (ホストコミュニティ含む)	インフラ整備	国内避難民キャンプの学校、給水設備、排水路、キャンプ内施設の修復、改築、建設	アルビル州、ドホーク州、ニナワ州、スレイマニア州	774,866人
	生活物資配布	酷暑、越冬対策として新規や脆弱性の高い世帯に生活物資配布	ドホーク州、アルビル州、スレイマニア州	91,838人
	学校保健	国内避難民児童の学校健診実施	ドホーク州、アルビル州、スレイマニア州	17,065人
	住宅再建	国内避難民キャンプにおける仮設住宅建設	ドホーク州	1,187世帯
帰還民支援	インフラ整備	帰還民地域における配電網整備	ニネワ州	5,820人

SYRIA シリア		支援内容	実施場所	受益者
紛争被災者支援	食料配布	国内避難民および紛争の影響を受けた人々への食糧キットの配布	ダマスカス県、アレppo県、ハッサケ県	9,845世帯
	生活物資配布	越冬支援として子ども用の冬服キットの配布	アレppo県、ハッサケ県	1,850世帯
	水・衛生	帰還民や国内避難民への安全で清潔な水の支給	アレppo県、ハッサケ県	4,958世帯

PALESTINE・GAZA パレスチナ・ガザ		支援内容	実施場所	受益者
紛争被災者支援	生計向上	短期雇用創出	北ガザ県、ハーン・ユニス県、ラファハ県	510人

AFGHANISTAN アフガニスタン		支援内容	実施場所	受益者
復興支援	能力向上	NGO能力強化トレーニング	アフガニスタン全土	2,302人

UGANDA ウガンダ		支援内容	実施場所	受益者
南スーダン難民支援	水・衛生、 学校保健	難民キャンプ内に井戸掘削、給水場整備、脆弱世帯向けトイレと仮設住宅建設、学校や市場での住民による衛生普及活動支援	ビディビディ難民居住地区 (ユンベ県)	34,525人

SOUTH SUDAN 南スーダン		支援内容	実施場所	受益者
国内避難民支援 (ホストコミュニティ含む)	水・衛生	国内避難民キャンプでの給水場、トイレの修理や改築、コレラ対策活動	ジュバ市	64,333人
	水・衛生	国内避難民・帰還民受け入れ地域での井戸の掘削や改修、世帯と保健センターのトイレ設置、住民や児童による衛生普及活動支援	ジュベック州、ジョングレイ州	230,581人
	地域保健	保健センターへの資機材・薬品供与、予防接種や基本保健サービス実施支援	ジョングレイ州	51,045人

KENYA ケニア		支援内容	実施場所	受益者
ソマリア難民支援 (ホストコミュニティ含む)	住宅再建	難民キャンプにおける仮設住宅の建設、キャンプ周辺地域住民への技術研修	ダダーブ難民キャンプ(ガリッサ郡)	2,103世帯 10,625人
南スーダン難民支援	住宅再建	難民キャンプにおける仮設住宅の建設、耐久型住宅の建設	カクマ難民キャンプ・カロベエイ難民居住地区 (トゥルカナ郡)	2,634世帯 13,170人

SIERRA LEONE シエラレオネ		支援内容	実施場所	受益者
水害被災者支援	調査、生活物資配布、水・衛生	人道支援ニーズ調査、生活物資の配布、共用井戸の修繕、共用トイレの建設	フリータウン近郊カニンゴ地区	11,524人

HAITI ハイチ		支援内容	実施場所	受益者
台風被災者支援	住宅再建	トタン板、住宅修繕ツールキット配布	南県サンジャン・ドゥ・スード	1,600世帯
	教育支援	学校備品、教科書、学用品の配布	南県サンジャン・ドゥ・スード	2,075人

SRI LANKA スリランカ		支援内容	実施場所	受益者
帰還民再定住支援	コミュニティ開発、地域農業市場の活性化	稲作と精米、酪農と乳製品加工、緊急支援を通じて行った支援	トリンコマレ県	38,240人
洪水被災者支援	生活物資配布	被災世帯へのキッチンセット・ベッドセットの配布	カルタラ県	8,425人

MYANMAR ミャンマー		支援内容	実施場所	受益者
難民帰還促進支援	水・衛生、防災	井戸などの建設・修繕、研修、防災訓練	カレン州、イラワジ地域	47,414人

NEPAL ネパール		支援内容	実施場所	受益者
ネパール大地震 被災者支援	物資配布	タライ平野洪水被災者物資配布支援	サブタリ郡周辺	6,780人、1,356世帯
	住宅再建	耐震技術普及支援	シンドゥバルチョーク郡	30人(大工)
	女性の活動	家庭内手工業を営む女性への復興支援	バクタブル郡	143人
	農業	農家のグループ化による営農改善と日本の過疎地域の経験を活用した生計向上事業	シンドゥバルチョーク郡	1,710人、342世帯

BANGLADESH バングラデシュ		支援内容	実施場所	受益者
医療支援	医療	移動式診療、簡易診療所建設・運営	コックスバザール県ウキア郡	66,509人

EAST TIMOR 東ティモール		支援内容	実施場所	受益者
地域開発支援	コーヒー生産者自立	コーヒー品質管理体制強化による小規模コーヒー生産者支援および支援地域の拡大事業	エルメラ県・ディリ市	540世帯

MONGOLIA モンゴル		支援内容	実施場所	受益者
教育・子ども支援		貧困家庭の子どもの自立	ウランバートル市	39人

JAPAN 日本		支援内容	実施場所	受益者
東北復興支援	コミュニティ再生	高齢者等の活動拠点の運営支援	宮城県南三陸町	被災者(不特定多数)
熊本地震被災者支援	コミュニティ再生	仮設住宅の自治会運営支援	熊本県益城町	直接受益者288人、間接受益者3,952人
		被災ベットの一時預かりや譲渡活動の支援	熊本県益城町、西原村	被災者(不特定多数)
九州北部豪雨被災者支援	緊急支援	行方不明者の捜索、避難所の運営支援、物資配布など	福岡県朝倉市、東峰村	被災者(不特定多数)
地域創生事業	観光振興・まちづくり	体験型観光パークの運営支援、特産品ショップの運営、観光協会の運営協力	広島県神石高原町	不特定多数
	伝統工芸振興	佐賀の伝統工芸の振興支援	佐賀県	不特定多数
	巡回診療	瀬戸内海の島でヘリを使った巡回診療	愛媛県上島町	地域住民約200人
	観光振興	瀬戸内海の無人島で現代芸術家の作品を一般公開	愛媛県上島町	不特定多数
動物保護活動	捨て犬の保護、譲渡など	犬の保護シェルター・譲渡センターの運営、セラピー犬等の育成	広島県、岡山県、東京都、神奈川県	不特定多数
災害支援	災害即応力強化	災害救助犬とレスキューチームの育成	広島県神石高原町	不特定多数

※受益者の算出について：村でのインフラ整備など、地域全体が対象となる支援については、その地域の人口を受益者数としています。

活動報告

Activity Report 2017

IRAQ / イラク
SYRIA / シリア
PALESTINE・GAZA / パレスチナ・ガザ
AFGHANISTAN / アフガニスタン
UGANDA / ウガンダ
SOUTH SUDAN / 南スーダン
KENYA / ケニア
SIERRA LEONE / シエラレオネ

HAITI / ハイチ
SRI LANKA / スリランカ
MYANMAR / ミャンマー
NEPAL / ネパール
BANGLADESH / バングラデシュ
EAST TIMOR / 東ティモール
MONGOLIA / モンゴル

TOHOKU / 東北復興支援
KUMAMOTO / 熊本地震被災者支援
KYUSHU / 九州北部豪雨被災者支援
PEACE WANKO / ピースワンコ・ジャパン事業
SAGA / 佐賀
HIROSHIMA・SETOUCHI / 地域創生事業



巡回診療のためPWJのヘリに乗り込む医師と看護師

IRAQ

〔イラク〕 活動期間 1996年～現在

教育や水・衛生、シェルター、
生活物資配布などの受益者

約100万人

シリア難民やイラク国内避難民を中心に、 生活向上を支援

PWJはイラク北部を拠点に、シリア難民やイラク国内避難民に加え、彼らを受け入れる地域の脆弱層に対しても生活の質を向上させるための支援を続けました。支援は、4つの州のキャンプ内外で、教育、水・衛生、住居、生活物資配布など多くの分野にわたります。加えて2017年度は、「イスラム国」の支配地域が縮小して国内避難民の帰還が一部地域で進んだことから、彼らが故郷に戻りやすくなるように、教育やインフラ整備などの帰還民支援もしました。



難民キャンプでの歯磨き啓発セッションの様子

SYRIA

〔シリア〕 活動期間 2017年～現在

食糧支援の受益者

9,845世帯

食糧や冬服を配布することで、 避難している人々の家計負担を軽減

紛争によりシリア国内で避難を余儀なくされている人の数は610万人に上ります。現地で活動する国際NGOと提携し、食糧や冬服の配布を行いました。食糧支援によって、栄養状態が改善されただけでなく、家計負担が軽減されて他の必要品を購入することができるようになりました。帰還民世帯や避難民キャンプに対しては、給水車で水を届け、生活状況の改善に貢献しました。



ダマスカスでの食糧配布

PALESTINE・GAZA

〔パレスチナ・ガザ〕 活動期間 2015年～現在

生活改善に向けた
活動の受益者

510人

若者に収入やスキル向上の機会を提供し、 就職をサポート

パレスチナ自治区ガザ地区では、10年以上にわたる経済封鎖で、若者の失業率が62%に達しています。就労経験のない若者を、教育・保健・福祉などの分野で活動する地元の市民団体に派遣することで、収入やスキルの向上に加えキャリア形成の機会を提供し、就職をサポートしました。実際に教員などとして採用された若者もいます。



子ども参加型学習を取り入れた補習授業の様子

AFGHANISTAN

〔アフガニスタン〕 活動期間 2001年～現在

市民団体ネットワークと協力し、 組織の能力強化を支援

日本の2つのNGOと、アフガニスタンの3つの代表的な市民団体ネットワーク組織と連携し、28県の市民団体に事業運営、財務などに関する研修を行い、1,366人が受講しました。また、地方の市民団体(907人)の事業の管理・監督を通じて、ネットワーク組織(29人)の能力強化にも取り組みました。アフガニスタンでは政府の統治が弱く、市民団体が力をつけて大きな役割を果たすことが期待されています。



研修に参加した現地団体のスタッフたち

事業運営の研修などを受けた
現地市民団体のスタッフ

2,302人

KENYA

〔ケニア〕 活動期間 2012年～現在

安心できる住まいを。 2,634軒の住宅建設に加え、住宅資材も提供

ダダーブ難民キャンプでは、300軒の仮設住宅を建設する一方、キャンプの縮小に伴って移送される難民1,473世帯と、大火と洪水に見舞われた330世帯に住宅資材を配布しました。カロベエイ居住地区とカクマ難民キャンプでは、2,330軒の仮設住宅と、304軒のより耐久性の高い住宅を建設しました。キャンプ周辺で暮らす地元住民にも住宅を提供したり、技術研修などを行ったりし、両者の良好な関係づくりにも配慮しつつ活動しています。



キャンプで暮らす子どもたちと建設したシェルター

キャンプ地での
住宅支援の受益者

23,795人

UGANDA

〔ウガンダ〕 活動期間 2016年～現在

水の安定的な供給、 衛生知識の普及にも貢献

南スーダン難民を受け入れた北部のビディビディ難民居住地区で、水タンクやソーラーパネル井戸給水システムを設置し、飲料・生活用水の安定的な供給に努めました。また、お年寄りや障がい者など特別な支援を必要とする人を対象に、トイレや住居の建設を進めています。小学校でもトイレを建設するとともに、学校や市場など人が多く集まる場所で、手洗いや清掃などの衛生知識を普及させ、実践を広めるための活動に取り組んでいます。



難民居住地区に設置した給水タンク

給水支援および
衛生支援の受益者

34,525人

SIERRA LEONE

〔シエラレオネ〕 活動期間 2017年～2018年3月

衛生的な生活環境を取り戻すため、 豪雨で汚染された井戸やトイレを復旧

2017年8月、首都フリータウン郊外で豪雨による土砂崩れや洪水が発生したことを受け、被害状況把握のための調査を経て、被害の大きかった6つの地区の一つであるカニンゴ地区の早期復旧を支援する事業を11月に始めました。現地NGOと協力し、必要な生活物資の配布や、汚染された井戸やトイレの復旧を通じて、住民が衛生的な生活環境を取り戻せるよう支援しました。



建設中の井戸

物資支援や、井戸や
トイレの復旧の受益者

11,524人

SOUTH SUDAN

〔南スーダン〕 活動期間 2006年～現在

増加する国内避難民に、 給水所やトイレを新設・修理

混乱が続く南スーダンでは、国外に逃れる難民だけでなく、国内避難民も増加の一途をたどっています。日本人の入国が難しい状況下で、現地NGOと連携し、ジュバ市内のキャンプ地で壊れた給水所の修理や仮設トイレの建替えを行いました。また、帰還した避難民を受け入れる周辺コミュニティでも、井戸の修復や学校トイレの建設を進め、学校衛生クラブや公衆衛生普及員などの活動の再開を支援することで、住民が健康的に暮らせる環境づくりに努めました。



子ども用トイレを利用する国内避難民の子どもたち

安全な水供給、トイレ整備や
衛生普及活動の受益者

345,959人

HAITI

〔ハイチ〕 活動期間 2016年～現在

ハリケーンの被災者支援として、 家屋修繕キットを配布

2016年に上陸したハリケーン・マシューの被災者支援として、前年度に続き、家屋修繕キットを配布しました。また、ピースウィンズ・アメリカからの寄付金を活用し、7つの学校と幼稚園の学生や園児2,075人を対象に教科書や学用品を配布し、各学校には黒板やチョーク、算数キットなどを提供しました。2018年度はハリケーンや地震といった自然災害に対する防災力を高めるための新事業を始める予定です。



支援した学校の先生たち

シェルターキットや
学校支援の受益者

10,057人

SRI LANKA

🇱🇰 〔スリランカ〕 活動期間 2009年～現在

農業と酪農業の生産性の向上、 市場開拓や品質改善を支援

多様な民族が住む東部トリンコマレ県を拠点に、組合の組織強化を通じた農業・酪農業の生産性向上と、地域市場の開拓に取り組んでいます。2017年度は、深刻な干ばつ被害を受けて、不作を乗り切るための精米所の運営と、かんがい施設の整備、酪農加工品の品質改善と増産に力を入れました。また、腎不全にかかる人が多い地域の住民に、飲料水を浄化するためのフィルターを支援したほか、その後の洪水で被災した住民にも生活用品を配布しました。



現地で行われたモニタリングの様子

農業・酪農事業での参加者
および、緊急支援の受益者

46,665人

BANGLADESH

🇬🇧 〔バングラデシュ〕 活動期間 2017年～現在

ロヒンギャ難民キャンプで診療所を建設。 巡回診療も行い難民支援

ミャンマー軍と武装勢力の対立により、2017年8月以降76万人を超えるロヒンギャ難民がバングラデシュへ避難しています。PWJは緊急の医療ニーズに応えるため、現地の医療団体と提携して難民キャンプ内に診療所を建設し、運営しました。診療所では通常の外来だけでなく、出産補助や産前産後のケアも行います。また、病院まで来ることができない人のために、巡回診療にも取り組みました。



診療所開設時の記念撮影

診療を受けた患者

66,509人

MYANMAR

🇲🇲 〔ミャンマー〕 活動期間 2013年～現在

住民に安全な飲料水を。 井戸や水道の建設・修繕と住民向け講習を実施

乾季には安全な飲料水の入手が難しくなるカレン州の農村部で、井戸や簡易水道などを建設・修繕するとともに、住民に対して衛生意識の向上を目的とした講習をしました。また、農村部の給水施設の整備を担当する政府のエンジニアにも技術研修を行いました。雨季に洪水がたびたび起きるイラワジ地域の30の村では、住民が参加してのハザード・マップの作成、避難訓練など、減災を目指した活動に取り組みました。



住民に対してヒアリングを行うスタッフ

水や衛生、防災の
支援の受益者

47,414人

EAST TIMOR

🇲🇵 〔東ティモール〕 活動期間 2003年～現在

ピースコーヒーの生産者が2年連続グランプリ。 将来を担う子どもたちに授業

東ティモールのコーヒーの木は老化が進み、収穫量を保つためにはコーヒーの木や畑を正しくメンテナンスすることが必要です。そこで、現在栽培に携わっている生産者だけでなく、コーヒー産業の未来を担う子どもたちが将来きちんと手入れができるよう、産地レテフォホの小学校で出張授業を行いました。東ティモールで2度目の開催となったコーヒーの品評会では、PWJが支援するピースコーヒーの生産者グループが2年連続のグランプリに輝きました。



レテフォホの小学校で行った出張授業の様子

支援した
コーヒー生産者

540世帯
(3,780人)

NEPAL

🇳🇵 〔ネパール〕 活動期間 2015年～現在

地震から3年。農家の生計向上を支援するほか、 耐震技術研修を実施

2015年の大地震から約3年たった現在も、復興は道半ばです。震源地だったシンドゥパルチョーク郡で、地元の大工を対象に耐震技術の研修をするるとともに、野菜の栽培・販売技術の移転を通じて農家の生計向上を図る新たな事業を始めました。一方、南部のインド国境地域では、大きな洪水が発生し、被災した世帯に食料や生活必需品、寝具等を提供しました。



農業研修でトマトの種をまく農家の人々

研修や支援物資の
受益者

8,663人

MONGOLIA

🇲🇳 〔モンゴル〕 活動期間 1996年～現在

孤立した子どもに寄り添う支援を

親の死亡や育児放棄、貧困などで孤立した子どもたちの支援を、保護施設「ベルビスト・ケアセンター(VCC)」を通じて続けています。施設では今も39人の子どもたちが暮らし、将来自立して社会に出ていけるよう教育や訓練を受けています。



施設で行われたイベントでのスタッフと子どもたち

保護施設「ベルビスト・
ケアセンター」に通う子ども

39人

TOHOKU

〔東北復興支援〕 活動期間 2011年～現在

高齢者の活動の場づくり。 現地NPOと連携し、活動を継続中

2011年3月の東日本大震災から7年が経ち、多くの住民が仮設住宅から高台の新居や公営住宅に移り住みました。PWJは、新たなコミュニティの形成をサポートするため、宮城県南三陸町の現地NPOと連携して活動を続けています。地域の高齢者を中心とした住民を対象に、生きがいにつながる余暇活動の場を提供したり、草刈りや墓地清掃などの軽作業をマッチングさせたりするための拠点施設の運営を支援しています。



エコクラフトを使ったバスケットを織る様子

KUMAMOTO

〔熊本地震被災者支援〕 活動期間 2016年～現在

仮設団地の課題の解決へ、 他県の被災地視察や研修の機会を提供

仮設団地の自治会役員や住民を対象に、他の被災地の視察や研修の機会を提供し、復興を支援しました。宮城県、新潟県を訪れた視察では、住民や行政、支援団体から、復興の過程で経験した課題とその対応について聞き取りをしました。専門家による研修では、仮設団地内外での問題解決のスキルなどを学びました。住民や地元の支援団体と連携し、仮設団地でのイベントの支援もしました。また、被災ペット支援として、犬・猫の保護や譲渡活動を行う3団体をサポートしています。



東日本大震災の被災地視察で石巻市を訪問

他被災地の視察や
研修の参加者

288人

KYUSHU

〔九州北部豪雨被災者支援〕 活動期間 2017年

被災者に安心を。 行方不明者の捜索に続き避難所の運営を支援

7月初めに発生した豪雨災害に対応し、被害が大きかった福岡県朝倉市の杷木地区で、災害救助犬とレスキューチームが行方不明者の捜索にあたりました。また、並行して朝倉市や東峰村の避難所に、生活必需品を届けました。7月後半からは、杷木中学校に設けられた避難所にスタッフを常駐させ、閉鎖された10月まで運営を支援。さらに、朝倉市や他の支援団体と協力し、「みなし仮設住宅」に入居する世帯や、自宅を修理するなどして生活する被災者に、家電製品を提供しました。



孤立した集落へ救助に向かうレスキューチーム

避難所運営および
家電配布で支援を受けた世帯

487世帯

PEACE WANKO JAPAN

〔ピースワンコ・ジャパン事業〕 活動期間 2010年～現在

2017年度に保護した犬 1,810頭

目標は全国での殺処分ゼロ。 譲渡センターを開設し、団体の助成事業を開始

広島県内で殺処分対象になったすべての犬の保護を続け、「殺処分ゼロ」を維持しました。犬舎を増やして頭数の増加に対応する一方、新たに2カ所の譲渡センターを開設。また、殺処分ゼロを全国に広げるため、他の保護団体に対する助成事業を始め、17団体の活動を支援しました。11月にはバンドSEKAI NO OWARIと協力して犬・猫の譲渡会「プレーメンパーク」を開き、39団体、340頭が参加。災害救助犬、セラピー犬に加え、獣害から農地を守る「里守り犬」などの育成にも新たに挑んでいます。



幕張メッセでの大譲渡会「プレーメンパーク」

SAGA

〔佐賀〕 活動期間 2015年～現在

伝統工芸を世界へ。 パリでの国際工芸フェアに作品を出展

5月にパリで開かれた国際工芸フェア「REVELATION2017」に佐賀の伝統工芸7事業者の作品を出展しました。制作にあたってフランスからデザイナーを2名招き、従来にない発想やデザインの作品を完成させました。佐賀の伝統工芸のポータルサイトを目指し、「ピースクラフツSAGA」のウェブ、SNSを通じた情報発信にも力を入れました。また、5月に開設された、入院する子どもに付き添う家族の宿泊施設「ファミリーハウス佐賀」の立ち上げ支援も行いました。



「REVELATION2017」出展のため日仏で作品づくり

HIROSHIMA・SETOUCHI

〔地域創生事業(神石高原町・瀬戸内)〕 活動期間 2012年～現在

日本を代表するイノベーターが集結。 ソーシャルイノベーションサミットを開催

広島県神石高原町では、特産品ショップとカフェを併設した「マルクトプラッツ」の運営と、観光施設「神石高原ティアガルテン」の運営支援を続けました。9月にはさまざまな分野の一線で活躍する方々を招き、「ソーシャルイノベーションサミット」を開催。帝釈峡の観光PRにも貢献。愛媛県上島町では、無人島の豊島で現代芸術家ゲルハルト・リヒターの作品の公開を続けたほか、診療所の医師がいなくなった魚島、高井神島にヘリコプターで医師や看護師を定期的に派遣する巡回診療を始めました。



ソーシャルイノベーションサミットの様子

日本での 地域振興事業

ソーシャルイノベーション・プラットフォームとしてピースウィンズ・ジャパン(PWJ)は国内でもさまざまな問題に取り組んでいます。その活動の広がりをご紹介します。

観光



マルクトプラッツの外観

神石高原ティアガルテン・マルクトプラッツ (Markt Platz)

牧場や芝生の広場、ツリーハウス、キャンプ場などを有する自然体験型のテーマパーク。運営する株式会社神石高原ティアガルテンの運営支援を行っています。神石高原町とその周辺地域の特産品や食材を詰め込んだアンテナショップであるマルクトプラッツには、カフェも併設しています。



カフェから見る帝釈峡

帝釈峡

広島県の観光名所である帝釈峡では、帝釈峡観光協会の事務局運営に協力しています。また、神龍湖の景色を眺めながらゆっくりくつろげるカフェ・ド・帝釈峡(Café de Taishakukyou)を運営する株式会社帝釈峡の支援も行っています。

アート・工芸



竹林の中に建つリヒター作品専用の展示スペース

瀬戸内・豊島

瀬戸内海の無人島である豊島(とよしま=愛媛県上島町)で、ドイツの世界的現代芸術家ゲルハルト・リヒターの作品を一般公開。PWJと同じ広島県神石高原町に本部を置くNPO法人瀬戸内アートプラットフォームと協力し、地域振興に取り組んでいます。



新商品の開発に挑む職人

ピースクラフツSAGA

佐賀の伝統工芸を支援するプロジェクト。情報発信、チャネル開発、生活様式や生活者の意識の変化に対応した商品づくりを支援しています。作り手と使い手の交流を目的としたツアーや商品開発にも取り組む予定です。

人道支援



晴谷驛(ハレバレー)の外観

南三陸町活性化プロジェクト

さまざまな講座や交流活動ができる「晴谷驛(ハレバレー)」を2015年に建設。南三陸町の高齢者支援団体である特定非営利活動法人びば!南三陸と協力して運営・管理しています。



診療中の医師

翼のある病院船プロジェクト

医師がいなくなった離島の診療所に、ヘリコプターや船舶を使って医療チームを定期的に派遣し、巡回診療をしています。今後は他の地域でもニーズがあれば対応するとともに、急患が発生した際にヘリを使って近隣の三次救急病院に搬送するための体制づくりにも力を入れます。



ピースワラベ・プロジェクト

紛争や災害などで教育を受けることが困難な子どもたちを受け入れ、質の高い教育を提供し、世界のさまざまな問題を解決に導けるような人材を育てることを目的とした事業です。早ければ2020年にも、PWJグローバルシチズン・スクール(仮称)を開校することを目指しています。

動物・環境



ピースワンコスタッフ

ピースワンコ・ジャパン・プロジェクト

2020年までに日本全国で犬の殺処分ゼロを目指すプロジェクト。2016年4月、広島県で殺処分対象犬の全頭引き取りを開始し、現在に至るまで「殺処分ゼロ」を継続しています。



神石高原町で飼育する引退した競走馬

ピース・ワイルドホース・プロジェクト

日本では引退した競走馬の90%以上が殺処分されています。このプロジェクトでは、乗馬できる場所の運営や乗馬文化の普及を通じて競走馬のセカンドライフを実現することを目的としています。



花粉症プロジェクト

花粉飛散や土砂災害の要因となる荒れたスギやヒノキの林を間伐し、日本の里山に合った広葉樹に植え替えます。苗木の育成などで障がい者の雇用も生み出す、まさに「一石三鳥」のプロジェクトを目指します。

How to support 支援方法

PWJの活動は、皆さまのご寄付に支えられています。活動方針である「必要な人びとに必要な支援を」を実現するため、ご寄付やふるさと納税、ボランティアなど、多様な方法で皆さまのご支援やご協力を募っております。

PWJの活動全般を支援する

ピースサポーター

月々 1,200円～



毎月の継続的なご寄付により、自然災害の被災者や紛争による難民などに必要な支援を届け、長期的に支えていただく支援プログラムです。ご寄付は現地のニーズに合わせて大切に使用させていただきます。サポーターの皆さまに対しては、各事業地の活動を掲載した年次報告書や年4回のニュースレターをお届けします。

東ティモールのコーヒー生産者を支援する

コーヒーサポーター

月々 500円～



東ティモールのコーヒー生産者の自立と現地の人たちの生活改善を目的としたプログラムです。1年間継続していただいた方には、「ピースコーヒー」のドリップバッグ2袋のサンプルとレポートをお届けいたします。

その他のご寄付

🖱 クリック募金

ウェブサイト内のボタンをクリックするだけで寄付ができる「クリック募金」。スポンサー企業が代わりに寄付をするので、支援者の皆さまには一切お金がかかりません。JWordクリック募金、社会貢献サービス「gooddo」などがあります。

📀 ブックキフ

ブックオフコーポレーションの協力により、不要になった本・CD・DVD・ゲームソフトなどを無料集荷の上、買取金額がPWJに寄付されます。

📱 その他

書き損じはがきや未使用切手をお送りいただく「ハガキフ」、スマートフォンで料金と一緒に寄付ができる「かざして募金」、ギフトカタログで選ぶギフト寄付、インターネット寄付などがあります。詳細はWEBの「寄付する」をご覧ください。

① 1回の寄付からでも

支援をしたいタイミングで、寄付額や支援目的を選んで寄付をしていただけます。銀行振込、郵便振替、クレジットカードでのお支払い等が可能です。

① 寄付控除の対象です

PWJは「認定NPO法人」として広島県に認定されています。これによりPWJへのご寄付は寄付金の税金控除の対象となります。※正会員会費は対象外です。

災害救助犬育成、殺処分ゼロに向けた保護活動を支援

ワンだふるサポーター

月々 1,000円～



ピースワンコ・ジャパン事業を継続的にご支援いただくプログラムです。ご寄付は、保護した犬の新しい飼い主が見つかるまでの飼育(食事代や医療費など)や災害救助犬・セラピー犬の育成などの費用に使わせていただきます。サポーターの皆さまには年3回のニュースレターをお届けいたします。

ワンだふるファミリー

月々 一口3,000円～



殺処分から救った犬の中には、高齢や病気などを理由に、長い間家族に恵まれない犬がいます。そんな犬たちを遠方から支えていただく会員制度です。サポーターの皆さまには、ニュースレターや誕生日カード、ブログを通して犬の近況などをお伝えいたします。

ふるさと納税



広島県神石高原町へのふるさと納税で、全国の犬猫の「殺処分ゼロ」に向けた活動をご支援いただけます。2015年度から税金の控除額が約2倍、確定申告が不要になり、よりお手軽な支援が可能となりました。ポータルサイト「ふるさとチョイス」からもお申込みいただけます。

詳細はピースワンコ・ジャパンWEBサイトから。

ピースワンコ 寄付

検索

<http://peace-wanko.jp/donation>

ふるさと納税 殺処分0

検索

ふるさとチョイスのWEBサイト <http://www.furusato-tax.jp/gcf>

私たちの「殺処分ゼロ」とは、動物愛護センターに持ち込まれる犬のうち、愛護センターの獣医師の診断でもう助からないと判断され、安楽死させられたり、センター内で病死してしまったりした犬を除く殺処分対象の犬をすべて引き取り、いわゆるガス室を使った無差別的な処分を止めることです。私たちは愛護センター側に対し、これらの犬を殺処分する前に必ず私たちに連絡するよう依頼しています。

私たちは、県や市の愛護センターからの犬の引き取り、訓練、譲渡、飼い主の意識啓発、他の活動団体への助成等に取り組んでいます。動物保護活動には様々な考え方がありますので、譲渡や繁殖制限などを含む私たちの活動方針についてもぜひご一読いただき、ご理解のうえご支援をいただければ幸いです。 ▶ http://peace-wanko.jp/action_policy.html

ボランティア

PWJは平日の事務所での作業(フェアトレード商品のラッピングなど)や、イベントのお手伝い、保護犬の飼育などをしていただくボランティアを募集しており、学生からシニア世代まで多くの方に社会貢献活動として取り組んでいただいています。翻訳やデザイン、ライティングなど職業上持っている知識やスキルを生かしたプロボノもあります。

① ご寄付は大切に使います

皆さまからのご寄付は、世界中の支援を必要としている人々のために大切に使用させていただきます。2017年度は、全収入のうち92.1%を事業費に、7.9%を管理費等に使わせていただきました。



詳しくは、PWJのWEBサイト、もしくは支援者サービス係までご連絡ください。

ピースウィンズ 寄付

検索

☎ 03-5738-8022 平日 9:00~17:00

Supporter

企業や団体からのご支援

PWJは企業や団体の皆さまを大切なパートナーと考え、連携を重視しています。
今後も企業や団体の皆さまと連携を深め、より社会に貢献できる活動を目指します。

企業連携の事例

クラウドファンディングによる東北復興支援

『アルファ ロメオ』や『フィアット』などの自動車インポーターとして知られるFCAジャパン株式会社では、インターネットを通して不特定多数の人から資金を調達する「クラウドファンディング」を利用して宮城県南三陸町が抱える課題と支援の必要性を広く社会に訴え、集まった資金をPWJに寄付して下さいました。



不用になった服やバッグの寄付で支援

海外ファッションの通販サイトを運営する株式会社wajaでは「FASHION CHARITY PROJECT」を通して、消費者から使わなくなった服やバッグを集めてネット上で販売しています。その売り上げ全額を、PWJを含む社会貢献団体に寄付しています。



本業を通じた連携事例



PWJがウガンダの難民居住地区の小中学校などで行っている衛生普及事業には、洗剤メーカーのサラヤ株式会社が協力しています。講習では小学生たちが、サラヤのトレーナーさんから手洗いの重要性和正しい手洗い方法を教わりました。

ピースコーヒーで社内啓発



三菱電機インフォメーションシステムズ労働組合では、東ティモール産フェアトレードコーヒーを組合20周年の記念品として採用、組合員の皆さんの「フェアトレード」や「国際協力」に対する理解の促進に取り組んでいます。

ワンコのお世話ボランティア派遣



ピースワンコ事業では広島県神石高原町で社員ボランティアを受け入れ、犬舎の掃除や保護犬の散歩、給餌、人慣れトレーニングのお手伝いをしていただきました。

2017年度高額寄付、協力企業・団体



動物殺処分ゼロプロジェクト「ブレーメン」／日本たばこ産業株式会社／Yahoo!ネット募金／生活協同組合バルシステム東京／GMOソリューションパートナー株式会社／高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン実行委員会／シャディ株式会社／株式会社waja／パカラ パシフィック株式会社／FCAジャパン株式会社／三菱電機関連労働組合連合会／株式会社ユナイテッドアローズ／三井化学株式会社／株式会社ワットマン／公益社団法人アニマル・ドネーション／丸中製菓株式会社／株式会社祐真／一般財団法人ジャバングビング／J.S.Foundation／Santa Fe Jin／株式会社ロワール／株式会社キリンビバックス／株式会社さいたま建設／株式会社藤田商店／株式会社有隣堂／株式会社エイチアールインスティテュート／公益財団法人毎日新聞東京社会事業団／岡田茂吉研究所／株式会社メディコム／株式会社カラーズ GREEN DOG／ネセサリー株式会社／リコージャパン株式会社／株式会社プレーリードッグ／ブックオフコーポレーション株式会社

About us

団体情報

ビジョン・ミッション

ビジョン

人びとが紛争や貧困などの脅威にさらされることなく、希望に満ち、尊厳を持って生きる世界をめざします。

ミッション

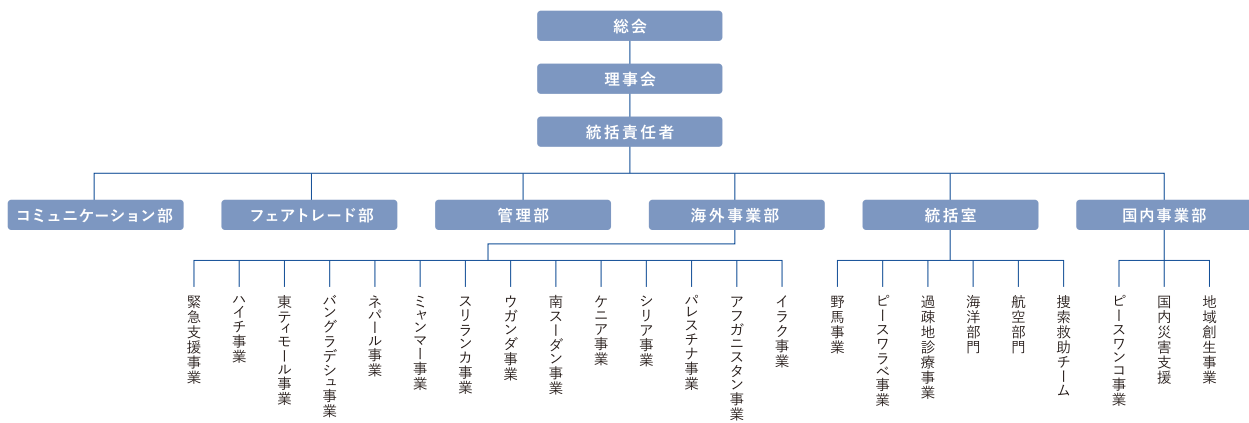
紛争や自然災害などにより、生命が脅かされている人びとに対し、迅速に緊急人道支援を行います。
社会的基盤の崩壊などにより、困窮している人びとに対し、自立のための復興・開発支援を行います。
支援地での活動を通じ、紛争の予防および解決に取り組みます。
支援の必要性に対する情報を発信し、市民の関心を喚起します。
援助システムをより効果的にするための提言を行い、その改善に取り組みます。

団体概要

2018年1月末時点

名称	特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン
設立	1996年2月
法人格取得	1999年10月
スタッフ数	計361人(本部契約スタッフ93人、事業別契約スタッフ268人)
役員	代表理事 大西 健丞
理事	石井 宏明 渋谷 健司 三宅 登志子 山本 理夏 桑名 恵
監事	川合 孝一

組織図



メディア掲載

2017年度も新聞、テレビ、雑誌などで活動が紹介されました。

3月	テレビ朝日系列「テレメンタリー2017」でピースワンコの活動を紹介
4月	TBS系列「好きか嫌いか言う時間」でふるさと納税についてピースワンコを紹介。日本テレビ系列「天才! 志村動物園」や毎日放送「ちんぷいぷい」(関西ローカルの情報番組)でピースワンコの活動を紹介
5月	雑誌「いぬのきもち」で救助犬・夢之丞とハンドラー・西を紹介
7月	秋田県の豪雨災害の際に出動したレスキューチームの映像をテレビ朝日「報道ステーション」やバズフィードが放映・掲載
8月	日経ビジネスオンラインが園井修氏と大西健丞代表理事の対談「「世界基準で救う」ために必要なことは」を掲載

9月	広島県の情報誌「FLAG」でピースワンコ監修の連載がスタート
11月	幕張メッセで開催された「プレーメンパーク」を日本テレビ系列「news every.」と「NEWS ZERO」が紹介
12月	朝日新聞出版のNyAERA(ニャエラ)が熊本地震時のペット同行避難に関する記事を掲載
1月	NHK「クローズアップ現代+」でピースワンコの活動を紹介

2017年度会計報告

第19期事業年度 特定非営利活動に係る事業 活動計算書 2017年(平成29年)2月1日から2018年(平成30年)1月31日まで

科目		金額(円)		
Ⅰ 経常収益				
1 受取会費	正会員受取会費	3,320,000		
	賛助会員受取会費	1,020,000		
	ピースサポーター	28,448,017		
	ワンだふるサポーター	345,928,459		
	ワンだふるファミリー	21,177,000		
	その他受取会費	3,558,900		
			403,452,376	
2 受取寄付金	受取一般寄付金	29,156,246		
	受取特定目的寄付金	233,442,491		
	物品・現物等寄付収益	7,752,872		
			270,351,609	
3 受取助成金等	ふるさと納税交付金	577,532,001		
	民間助成金	1,875,238,336		
	補助金等	338,801,196		
	国連等補助金	565,998,207		
			3,357,569,740	
4 事業収益	フェアトレード事業(ET国内含)収益等その他売上	148,883,658		
	業務委託収益	14,895,559		
	その他事業収益	10,354,062		
			174,133,279	
5 その他収益	受取利息	1,703,199		
	雑収益	15,230,456		
			16,933,655	
経常収益計				4,222,440,659
Ⅱ 経常費用				
1 事業費	(1)人件費	784,446,997		
	(2)その他経費	3,386,696,342		
	事業費計		4,171,143,339	
2 管理費	(1)人件費	45,101,889		
	(2)その他経費	143,163,129		
	管理費計		188,265,018	
経常費用計				4,359,408,357
当期経常増減額				▲ 136,967,698
Ⅲ 経常外収益				
	固定資産売却益		9,991,877	
	固定資産受贈益		300,000	
	その他経常外収益		18,532,312	
経常外収益計				28,824,189
Ⅳ 経常外費用				
	助成金等返還額		136,368,444	
	為替差損		13,608,203	
	支払利息		4,460,181	
	固定資産除却損		16,453,892	
	その他経常外費用		568,622	
経常外費用計				171,459,342
税引前当期正味財産増減額				▲ 279,602,851
法人税、住民税及び事業税				568,700
当期正味財産増減額				▲ 280,171,551
前期繰越正味財産額				230,259,533
次期繰越正味財産額				▲ 49,912,018

第19期事業年度 特定非営利活動に係る事業 貸借対照表 2018年(平成30年)1月31日現在

資 産			負債及び正味財産				
科 目		金 額（円）	科 目		金 額（円）		
Ⅰ 資産の部			Ⅱ 負債の部				
1 流動資産	現金預金	422,186,871	1 流動負債	仮受金	205,076		
	海外現金預金	403,835,388		未払金	307,926,200		
	売掛金	7,849,145		未払費用	613,853		
	商品	86,016,216		預り金	16,577,194		
	未収入金	181,551,335		前受金	15,428		
	未収収益	667,124		短期借入金	270,000,000		
	立替金	1,529,459		1年内返済予定長期借入金	86,430,144		
	前払金	5,375,399		前受助成金等	965,714,507		
	前払費用	4,583,430		未払法人税等	568,700		
	仮払金	31,697,347					
	未収補助金等	3,359,729					
	預け金	1,579,504					
	流動資産合計			1,150,230,947	流動負債合計		1,648,051,102
2 固定資産	建物	519,491,832	2 固定負債	退職給付引当金	19,457,550		
	建物付属設備	99,356,867		リース債務	17,360,190		
	構築物	50,952,732		長期未払金	6,572,800		
	車両運搬具	22,612,828		長期借入金	407,371,856		
	工具器具備品	47,044,553					
	機械装置	172,964	固定負債合計		450,762,396		
	船舶	464,676	負債の部合計		2,098,813,498		
	生物	1,219,009	1 正味財産	前期繰越正味財産額		230,259,533	
	土地	6,391,296		当期正味財産増減額		▲ 280,171,551	
	リース資産	14,273,460		正味財産		▲ 49,912,018	
	建設仮勘定	650,000					
	有形固定資産計			762,630,217			
	電話加入権	385,392					
	商標権	619,089					
	水道施設利用権	384,822					
	無形固定資産計			1,389,303			
	子会社株式	5,294,700					
	投資有価証券	43,500,000					
	出資金	50,000					
	長期貸付金	66,221,853					
	長期前払費用	3,870,467					
	敷金及び保証金	15,713,993					
	投資その他の資産計		134,651,013				
固定資産合計		898,670,533	正味財産の部合計		▲ 49,912,018		
資産の部合計		2,048,901,480	負債の部及び正味財産の部合計		2,048,901,480		

独立監査人の監査報告書 平成30年4月11日 特定非営利活動法人、ピースウィンズ・ジャパン 代表理事 大西 隆 殿 高塚公認会計士事務所 公認会計士 高塚直子 ファーサイト公認会計士共同事務所 公認会計士 有木幹雄	＜財務諸表監査＞ 私たちは、特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパンの平成29年2月1日から平成30年1月31日までの第19期事業年度の財務諸表（活動計算書及び貸借対照表）及び附随資料（以下「財務諸表等」という。）について監査を行った。 財務諸表等に対する理事者の責任 理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められるNPO法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。 監査人の責任 私たちの責任は、私たちが実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。私たちは、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の範囲は、私たちに財務諸表等に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを含んでいる。 監査においては、財務諸表等の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続の実施される。監査手続は、私たちの判断により、不正又は誤謬による財務諸表等の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私たちは、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表等の作成と運用と両方に関連する内部統制を評価する。また、監査には、理事者の採用した会計手続及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表等の内容の検証が含まれる。 私たちは、意見表明の基礎となるリスクの適切な評価を入手したと判断している。 監査意見 私たちは、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められるNPO
--	--

人会計の基準に準拠して、特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパンの平成29年1月31日現在の財政状況並びに開示をもって表す事業年度の活動の状況をすべての重要な点において適正と判断しているものと認める。 特許事項 特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパンと私たちの間には、公認会計士との間でにより監査すべき利益関係はない。 以 上

PWJは、高塚公認会計士事務所、
ファーサイト公認会計士共同事務所による
外部監査を受けております。

第19期事業年度 財務諸表の注記

1. 重要な会計方針 財務諸表の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2011年11月20日―部改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法	最終仕入原価法を採用しております。
(2) 固定資産の減価償却の方法	有形固定資産の減価償却方法は定率法（但し平成10年4月1日以降に取得した建物は定額法）、リース資産については、リース期間定額法を採用し、耐用年数は税法基準を採用しております。
(3) 引当金の計上基準	退職給付引当金 退職給付引当金は期末在職職員の「自己都合による退職時の要支給額(100%)」を計上しております。
(4) 外国通貨の換算方法について	外貨建取引については各月の平均レートにより円換算しております。 外国通貨及び外貨建金銭債権債務については期末日のレートにより円換算しております。
(5) 施設の提供等の物的サービスを受けた場合の会計処理	施設の提供等の物的サービスの受入れは、活動計算書に計上しています。 また計上額の算定方法は「3. 施設の提供等の物的サービスの受入の内訳」に記載しています。
(6) 消費税等の会計処理	消費税等及び地方消費税は税込方式によっております。

2. 事業別損益の状況 別紙「財務諸表の注記事業別」参照

3. 施設の提供等の物的サービスの受入の内訳

内容	金額(円)	備考
物品・現物等寄付収益	7,752,872	市場価格等により算出
固定資産受贈益	300,000	査定会社の査定額より算出

4. 使途等が制約された寄付金等の内訳

内容	期首残高(円)	当期増加額(円)	当期減少額(円)	期末残高(円)	備考
民間助成金	0	1,875,238,336	1,875,238,336	0	入金額は1,832,408,255円。未使用分は前受処理している
国連等補助金	0	565,998,207	565,998,207	0	入金額は766,649,876円。未使用分は前受処理している
その他補助金	0	338,801,196	338,801,196	0	入金額は296,928,333円。未使用分は前受処理している
会費・寄付金及びふるさと納税交付金(保護犬事業)	0	1,082,494,036	1,082,494,036	0	当期増加額の内961,000円は未収入金処理している
寄付金及びふるさと納税交付金(熊本事業)	8,565,288	14,424,083	13,838,479	9,150,892	残高は翌期に繰り越し、被災者支援事業に使用予定
寄付金及びふるさと納税交付金(九州事業)	0	11,360,477	8,930,564	2,429,913	残高は翌期に繰り越し、被災者支援事業に使用予定
特定目的寄付金(ネパール支援)	23,180,424	90,315	10,400,141	12,870,598	残高は翌期に繰り越し、被災者支援事業に使用予定
特定目的寄付金(ミャンマー避難民支援)	0	10,709,230	2,169,637	8,539,593	残高は翌期に繰り越し、難民支援事業に使用予定
合計	31,745,712	3,899,115,880	3,897,870,596	32,990,996	

当法人の使途が制約されていない正味財産は▲82,903,014円です。

5. 固定資産の増減内訳

科目	期首取得価額(円)	取得(円)	減少(円)	期末取得価額(円)	減価償却累計額(円)	期末帳簿価額(円)
有形固定資産	建物	423,140,149	172,182,115	17,886,067	577,436,197	57,944,365
	建物付属設備	102,013,965	26,975,320	113,275	128,876,010	29,519,143
	構築物	32,344,516	26,930,829	0	59,275,345	8,322,613
	車両運搬具	92,947,852	11,747,722	21,234,784	83,460,790	60,847,962
	工具器具備品	74,249,066	18,337,280	1,760,214	90,826,132	43,781,579
	機械装置	1,254,861	0	0	1,254,861	1,081,897
	船舶	3,749,860	0	0	3,749,860	3,285,184
	生物	1,050,000	972,000	0	2,022,000	802,991
	土地	4,770,633	1,620,663	0	6,391,296	0
	リース資産	35,412,360	0	3,055,500	32,356,860	18,083,400
	建設仮勘定	26,165,000	96,165,089	121,680,089	650,000	0
	有形固定資産計	797,098,262	354,931,018	165,729,929	986,299,351	223,669,134
						762,630,217
無形固定資産	電話加入権	385,392	0	0	385,392	0
	商標権	2,119,590	530,920	0	2,650,510	2,031,421
	ソフトウェア	4,720,821	0	0	4,720,821	4,720,821
	水道施設利用権	502,000	0	0	502,000	117,178
	無形固定資産計	7,727,803	530,920	0	8,258,723	6,869,420
						1,389,303
投資その他の資産	子会社株式	5,294,700	0	0	5,294,700	0
	投資有価証券	41,000,000	2,500,000	0	43,500,000	0
	出資金	0	50,000	0	50,000	0
	長期貸付金	63,300,000	3,500,000	578,147	66,221,853	0
	長期前払費用	2,012,000	2,560,00	0	4,572,000	701,533
	敷金及び保証金	9,804,223	6,189,7700	280,000	15,713,993	0
	投資その他の資産計	121,410,923	14,799,770	858,147	135,352,546	701,533
						134,651,013
	合計	926,236,988	370,261,708	166,588,076	1,129,910,620	231,240,087
						898,670,533

6. 借入金を増減内訳

科目／借入先	期首残高(円)	当期借入(円)	当期返済(円)	期末残高(円)	備考
短期借入金	(株)広島銀行	150,000,000	270,000,000	320,000,000	100,000,000
	(株)トラスババンク	0	30,000,000	0	30,000,000
	須永珠代	0	10,000,000	0	10,000,000
	(株)C&I Holdings	0	130,000,000	0	130,000,000
	短期借入金計	150,000,000	440,000,000	320,000,000	270,000,000
長期借入金	(株)広島銀行	142,668,000	100,000,000	39,946,000	202,722,000
	(株)中国銀行	94,440,000	0	33,360,000	61,080,000
	(株)日本政策金融公庫	0	20,000,000	0	20,000,000
	西武信用金庫	0	10,000,000	0	10,000,000
	(株)C&I Holdings	0	200,000,000	0	200,000,000
	長期借入金計	237,108,000	330,000,000	73,306,000	493,802,000
合計		387,108,000	770,000,000	393,306,000	763,802,000

7. 役員及びその近親者との取引の内容 役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

項目	財務諸表に計上された金額(円)	内役員及び近親者との取引(円)
一般社団法人 アジアパシフィックアライアンス 代表理事 大西健丞		
(活動計算書)民間助成金	1,875,238,336	2,850,132
業務委託収益	14,895,559	2,500,000
地代家賃	75,630,164	7,574,352

項目	財務諸表に計上された金額(円)	内役員及び近親者との取引(円)
特定非営利活動法人 瀬戸内アートプラットフォーム 代表理事 大西健丞		
(貸借対照表)長期貸付金	66,217,760	60,000,000

項目	財務諸表に計上された金額(円)	内役員及び近親者との取引(円)
特定非営利活動法人 ジャパン・プラットフォーム 代表理事 大西健丞		
(活動計算書)民間助成金	1,875,238,336	1,849,411,281

項目	財務諸表に計上された金額(円)	内役員及び近親者との取引(円)
代表理事 大西健丞		
(貸借対照表)借入金連帯保証	—	763,802,000

項目	財務諸表に計上された金額(円)	内役員及び近親者との取引(円)
株式会社アシュティ・アンド・カンパニーズ 代表取締役 大西純子		
(活動計算書)外注費	267,364,204	1,350,000

8. その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項

事業費と管理費の按分方法 管理部職員のうち各事業へ従事している者の人件費は、従事割合で、事業費に振り替えております。その他経費のうち、各事業の直接経費については直接事業費としております。

第19期事業年度 財務諸表の注記事業別 2017年2月1日～2018年1月31日まで

(単位:円)

		1	2	3	4	5			
科目		紛争、災害等に起因する人道上の危機に際し生命・生活を守るための緊急人道支援、及び地域の復興と経済的自立のための復興・開発支援を行う	農業・観光をはじめとする産業の育成と復興、地域医療、福祉体制の改善などを通じ高齢化、高齢化などの課題の解決に貢献し、まちづくりを推進し、地域社会の活力を高めること	犬・猫の殺処分を減らすための捨て犬・捨て猫等の保護及び譲渡、動物と人が触れ合う場の提供など、人と動物の共生をめざす動物愛護の活動を行うこと	政府、企業、国際機関等と協力し、紛争の予防と解決、及び災害の発生に備える効果的な体制作りに取り組むとともに援助システムを含む社会の様々な制度しくみの改善を行うこと	機関紙・書籍の発行、報告会講演会の開催	事業計	管理	合計
Ⅰ 経常収益	1. 受取会費	583,000	0	367,105,459	0	0	367,688,459	35,763,917	403,452,376
	2. 受取寄付金	53,708,305	300,000	181,856,577	0	1,063,960	236,928,842	33,422,767	270,351,609
	3. 受取助成金等	2,777,231,246	44,000,001	533,532,000	206,493	0	3,354,969,740	2,600,000	3,357,569,740
	4. 事業収益	125,494,180	24,868,702	21,188,014	4,640	2,010,832	173,566,368	566,911	174,133,279
	5. その他収益	723,631	1,640,553	57,854	0	0	2,422,038	14,511,617	16,933,655
経常収益計		2,957,740,362	70,809,256	1,103,739,904	211,133	3,074,792	4,135,575,447	86,865,212	4,222,440,659
Ⅱ 経常費用 (1) 人件費 <									